

挑戦 第9号

発行日 平成11年7月27日
発行者 吉村研究室新聞委員会



第9号発刊にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

今年もまた研究室新聞「挑戦」の発刊の時期となりました。研究室の修了生並びに卒業生の皆様、元気で毎日を送っていますか。昨年と同様に厳しい社会状況の中で、サラリーマン生活を送っていることと思います。何とか元気を出して下さい。いずれは明るい光が差し込む日が来ると思いますので、それまでじっくりとその実力をつけるようにして下さい。

お陰様で、昨年11月7日(土)河辺町にありますプラザクリプトンにて研究室開設15周年記念を開催することができました。当日は秋田高専の柳原教授、情報工学科へ移られた西田教授もお忙しい中を参加して頂き、また多くの修了生や、学部の卒業生もかけつけて頂き、懐かしい顔を見ると同時に、話に花を咲かせることができました。裏方で頑張ってくれた鈴木助教授、水戸部講師、佐藤(忠)技官には改めて感謝申し上げます。

今年も4年生が15人入り、大学院生(Dr.:3人、Mr.:7人)と合わせて25人の大所帯です。相変わらずの学部長職にて多忙を極め、その分鈴木先生と水戸部先生へ研究室の指導でかなりの負担をかけており、申し訳ない気持ちですが、学生はそれぞれ明るく、彼らのペースで頑張っている様子で、安心しているところです。

昨年以上に就職前線は厳しいと言われておりますが、修士の就職希望者は全員内定、博士も1人は内定しましたが、4年生は8人中まだ3人と不調です。今年は大学院進学者が6人といつになく多く、無事試験を通過して入学できることを期待しているところです。

最後に、新聞の発刊にあたり、新聞委員会(委員長:M2 児玉朋彦君)のメンバーには大変苦勞をかけました。感謝する次第です。

吉村先生のご活躍

今年の6月、日本素材物性学会の役員改選が行われ、我が研究室の吉村先生が名誉会長に選出されました。

日本素材物性学会（会長・吉村昇秋田大学工学資源学部長）は6月22日、秋田市のホテルで11年度年会を開き、研究発表や山崎賞の授賞式を行った。

同会は昭和63年、秋田大学鉱山学部（現・工学資源学部）の教授らを中心に設立し、現在は正会員約550人。賛助会員や図書館会員を合わせると約1000人。年会は今年で9回目。（中略）

役員改選では、牧野和孝秋田大学工学資源学部教授が新会長に吉村会長が名誉会長に選出された。任期は定められていない。（秋田魁新聞より）



研究室の出来事

水戸部先生 結婚！

Marriage Ceremony

平成11年3月吉日。

北海道の某教会において、水戸部一孝先生が、新婦 陽子さんの挙式が行われました。そこで、我が吉村研究室新聞班は、新婚ほやほやの水戸部先生に一言をと、突撃インタビューを試みましたが、本人にうまくかわされたために、あえなく失敗！！

そこでめげない我が新聞班は、新婚ホヤホヤの新居に特班員2名（A君、B君）を潜入させ、2人の霧因気などを報告させました。その報告は…

A君：新居はですねー、一軒家でしたよ。室内は、リホームされていて、お二人のセンスの良さが感じられましたよ。

B君：お庭の方は、家庭菜園を設けていましたね。秋には、二人で収穫するのでしょうか！！

A君：2人の霧因気はですねー、見るからにアツアツでしたよ。奥さんも明るくて、気さくな人だし、水戸部先生もジョークを飛ばしたりするので、お似合いの夫婦でしょうね。

B君：お2人の左の薬指には、キラッと光るものが…。まぶし——。OBの皆さんが、今度、水戸部先生とお会いされる時は、是非左手の薬指に注目してみてくださいね。



まだまだネタがあるのですが、私達の報告はこれまでで…。後は、皆さんで先生の新居に遊びに行ってみてください。尚、今秋、結婚披露宴を秋田市内某ホテルにて行われるそうです。

未ながくお幸せに！！

注) ちなみに、奥さんの顔は、まだ内緒だそうです。

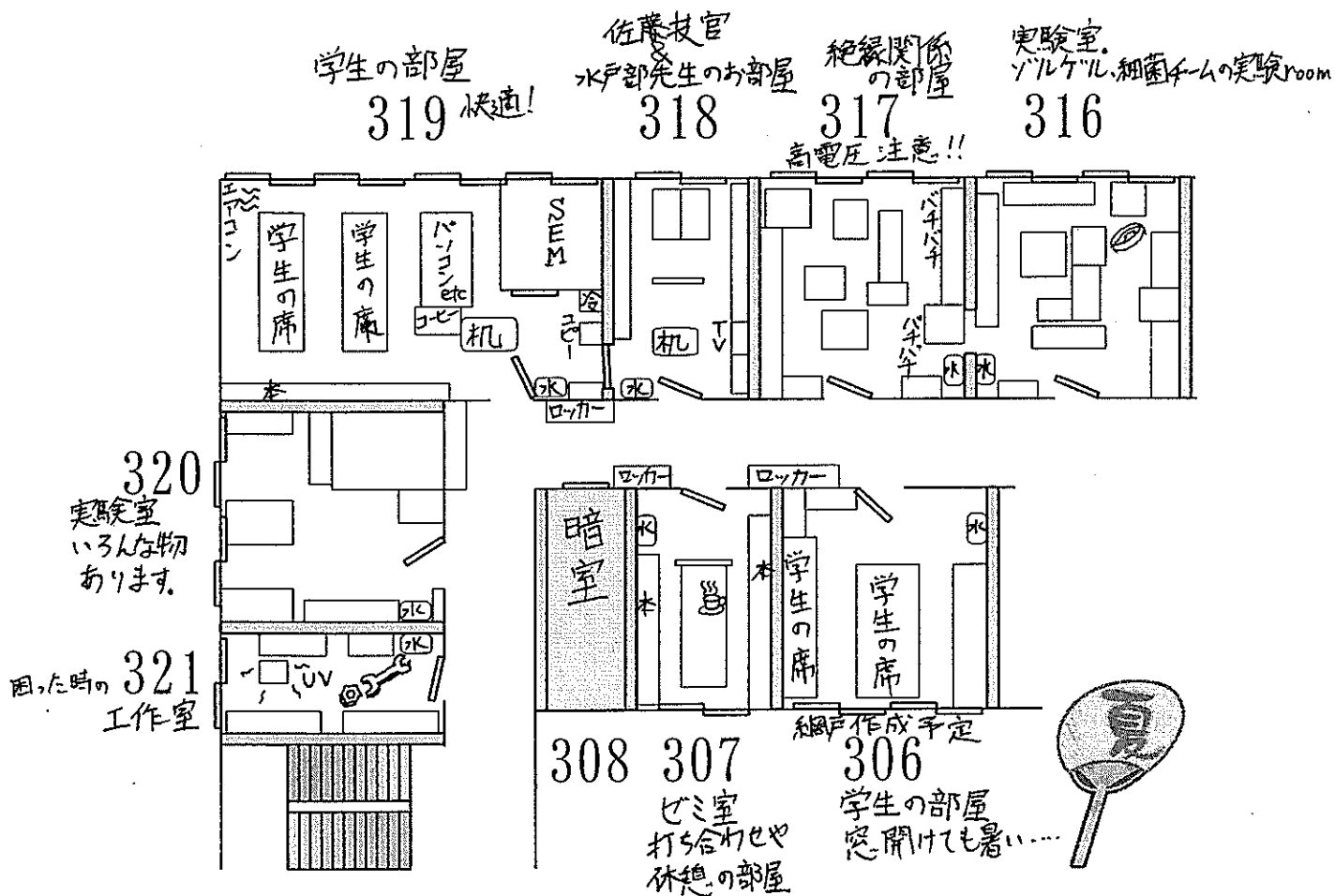
(M2 中川)

研究室模様替え

今年4月、我が研究室では、306roomを再びお借りすることができるようになり、昨年に引き続き部屋の移動が行われました。部屋が一つ増えるとあって、少なくなった昨年の大移動に比べ学生のやる気も違い、比較的スムーズに短期間で移動する事ができました。

昨年は、319roomに学生全員が入り、机がぎゅうぎゅう詰めで室内を移動するのも困難でした。また、学生個人のパソコンの台数も多く、夏場はサウナ状態でした。しかし今年は、学生部屋を306、319roomの2部屋とする事ができ、少し余裕のある机の配置になりました。そのため、部屋の人数が減り少し寂しい気もしますが、話し声も減り静かになり、勉強するにはもってこいの環境になったと思います。また、夏の夜に蚊や蛾、羽アリなどの虫さん達が窓から入室して来ないように、306roomの窓に網戸を自分たちで作成し取りつける計画もあります（誰も取り掛からないまま、夏が終わりそうですけど・・・）。今年の夏場はきっと（昨年よりは）涼しく快適に(?)過ごせることでしょう。

研究室の諸先輩、関係者の皆様、秋田にお越しの際は、このように快適となった研究室へ是非ともお立ち寄り下さい。



(M2 児玉)

研究室パソコン ウィルス感染

今年、1999年4月26日にチェルノブイリ原発事故13回忌にちなんで”CIH 1.2”という名のウィルスが全世界を恐怖のどん底に落とし込んだ。!! めったにウィルス警告を出さない米国ICSA（ウィルス対策ソフト製品の認定を行っている独立企業）とICSAのAVPD（アンチウィルス製品開発社会協会）が共同で、このウィルスに関する注意を発表しました。

”CIH 1.2”はファイル感染型ウィルスで、Windows 9 5/9 8の.EXEファイルに感染します。1998年5月に確認されたオリジナルウィルスCIHウィルスの亜種で、極めて悪質なペイロード（発病）を持っており、まず第一にパソコンのBIOSセットアップを上書きしようとしています。この第一アタックは、ソフトウェア経由でアップグレードできるフラッシュBIOSを持つパソコンのみに影響するものですが、フラッシュBIOSのプログラミング方法は各社によって異なるため、CIHが必ず上書きに成功するとは限りません。しかし、成功すればパソコンはスタートしなくなるので、BIOSをリプログラミングしなければなりません。そして、CIH 1.2が第一アタック（つまりBIOSへの上書き）に成功しようとしまいと、もっと悪質な第二のアタックを開始します。それは、パソコンのハードディスク全部をランダムデータで上書きし、パソコンに入っていたデータやアプリケーションをすべて消去してしまうのです。

我が研究室において、今年の3月中旬ぐらいにこのウィルスが発見され、大騒ぎになりました。気づいた時は、4年生だった学生は既に卒業しまし、大半がパソコンを所有していたため、感染している恐れがありました。それぞれに連絡し各自で対策を取ってもらうようにしてもらったのですが、最悪にもやられてしまった人もいます。次にウィルスにかかわった人にコメントを頂きましたので、一部を掲載します。

//////////////////// ☆第一発見者 Y.K氏（吉村研OB）☆ //////////////////////

やーびっくりしましたよ。ファイルを開こうとしたら、いきなり「このファイルにはウィルスが含まれています。」なんて出てきて。はっきり言ってパニックになりました。何しろ初体験なもので。それで、こりゃ「やばいな」と思って、急いで研究室学生M2の某青〇氏にこの緊急事態を連絡したらこんな回答が・・・。

「えー、そうなの。毎日使っているけどそんなこと全然ないけどなー、別にだいじょーぶなんじゃない。」とまあ、まるで危機感なし。（この時点では、まだウィルス対策ソフトをアップデートしてなかったらしく、気づいていませんでした。）

「もう知らん。自分は解決したからいいだろ」と思い、このことは忘れていました。

そして、変わりばえのしない毎日がしばらく続いたある日の出来事。

青〇：「やっぱりやられてたわ～」

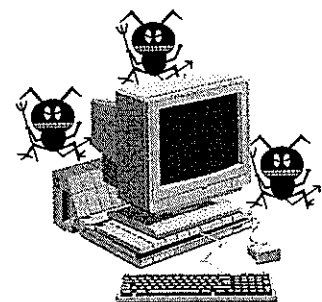
Y.K：「何の話？」

青〇：「この間のウィルスの話」

Y.K：「あーそんなのあったね。すっかり忘れてた。」

青〇：「ウィルススキャンしたらみんなやられてた」

Y.K：「そりゃそーだろ。」



とまあ、被害のほどはみなさんがよく知ってのとーり。

まーそれはおいといて、ちなみに僕は会社で使ってるウィルススキャンを使用していました。この事件が起きる少し前、「起動が遅くなるから」という理由で消してしまおうと考えていた私。入れておいてよかった。ホントに。でも、思い返すと、学生時代になんで同じような被害がでなかったんだろ。

(M2 青木)

年間行事 (98.8~99.7)

8月 夏休みで一息ついた後に中間発表が行われる。4年生にとっては最初の山場を迎える。

9月 2名の大学院進学が決まる。

10月 秋大祭にて研究紹介を行うも、悪天候のため研究紹介以外は中止となる。そのため、客入りが悪く今一つ盛り上がりにかける。残念。

11月 吉村研究室 15周年祝賀会が厳かに開催される。先輩方からさまざまな話を聞き、15年の歴史の重みを感じる。自分達も、偉大な先輩方に負けないよう頑張ろうと心に誓う。

12月 ボーリング大会が開催される。各自、実力を出し切ることができ、総合優勝。また、クリスマスイブにはすばらしいプレゼント(中間発表)をもらう。

1月 ついに大予言の年を迎える。しかし、みんな予言のことなど頭がない。あるのは修論・卒論のことばかり。寝てもさめても修論・卒論のことばかり。そんな毎日が続く。

2月 修論・卒論発表が行われる。いろんなことがあったが、みんな無事に発表を終えることが出来た。

また、電気電子工学科の謝恩会の日に、2次会にて、吉村先生が卒業生・修了生のために美声を披露される。あまりのすばらしさに、一同、

聞き惚れる。

3月 快晴の春の良き日に、卒業・終了式が行われる。

その後にはつらい別れが。みんな、希望、野望、欲望など様々な思いを胸に秘め、新天地へと旅立っていくのであった。

4月 機器研より306の部屋を期限付きで借りる。これで、今年の夏は快適に過ごせると期待が膨らむ。

また、新たに15人の新4年生が配属になる。今年も、クセモノ、ツワモノぞろいである。

5月 就職活動が始まる。研究室は、就職の話ばかり飛び交う毎日である。

6月 就職活動が活発になる。しかし、4年生はなかなか内定がもらえず、苦しい戦いが続く。戦後最大の就職難をひしひしと感じる毎日である。

(M1 毛利)

学生の挨拶

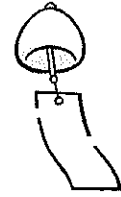
学生代表 青木健太郎

また、暑いあの季節がやってきました。研究室の諸先輩方、関係者の皆さん、元気でお過ごしでしょうか？

今年も去年に引き続き、研究室内の移動がありました。306の部屋を借り、学生を2つに分けることで少しは人口高密度が減少し、暑さも和らぎ、勉強にも集中できることでしょうか？また、最近パソコンが安くなり学生1人につき1台という状況で、日々データの量も大きくなっていくことから、「306」、「318」、「319」を10BASE-TケーブルとHUBを使いLANを構築しました。去年も実験的に10BASE-2ケーブルのみでLANを構築していたのですが、通信が切れたりと何かと不安定でしたので、今回総換えした次第です。結果、全員がメール、インターネットなど快適に使用できています。ここ、2～3年のPCの進歩は目を見張るものがありますね。就職については、相変わらず就職難が続いています。私が学部生のころよりも更に悪くなっているようです。大学院生はそうでもないのですが、学部生のほうは今現在（7月5日）、4～5人ほどがまだ決まっています。そのせいもあってか、大学院に進学する学生が例年より多いようです。2年間の短い期間ですが、学部では学べないことを学べ、とても力になると思います。頑張ってください。

また、研究室代表になって3ヶ月が経ちますが、水戸部先生の結婚、コンピュータウイルス事件、など去年に劣らず今年も激動の年だと感じています。これからも、様々な行事が控えています勉強にしろ、遊びにしろ、全力で頑張っていくつもりです。

さて、あとわずか2000年となります。1つの節目であり、皆さんどのような思いを胸に抱いて過ごしているのでしょうか？最近、Y2K問題、オウム問題など、世界の情勢が慌ただしくなっておりますが、私達は1900年代最後の吉村研究室生となります。このまま、何事もなく無事に締めくくることができるよう努力していきたいと思えます。



編集後記

暑中お見舞い申し上げます。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

“挑戦”第9号はいかがだったでしょうか？部屋移動やその年の学生の個性などもあり、研究室の雰囲気は毎年変化しているように思います。この新聞により、今年の研究室の雰囲気を知っていただければ幸いです。

仕事の取り掛かりが遅く頼りない編集長でしたが、熱心な新聞編集委員のお陰で、慌しくも無事完成に持ちこむ事が出来ました。また早く寄稿を引き受けて下さった吉村先生を始め研究室の皆様には、厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、OB・OGの方々からのご意見、ご感想を心よりお待ちしております。連絡先は下記の通りです。

〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町 1-1

秋田大学工学資源学部電気電子工学科
電気エネルギー工学講座 吉村研究室
水戸部 一孝

E-mail kazu@kc6.ee.akita-u.ac.jp

HP <http://kc6.ee.akita-u.ac.jp/>

吉村研新聞委員会

顧問	水戸部 一孝
編集委員長	児玉 朋彦 (M2)
副委員長	小嶋 幹人 (M2)
	中川 史子 (M2)
	毛利 大輔 (M1)
編集委員	有本 秀幸 (E4)
	猪股 仁吉 (E4)
	佐藤 俊一 (E4)
協力	青木 健太郎 (M2)